

# きちすけばし 吉助橋

分類：史跡  
町選定文化財

吉助橋は、平山から熊野に通じる県道の大浦トンネルの所にかかっていました。橋の横には、昭和42年1月に平山の人々により、坂口吉助翁顕彰碑が建てられています。

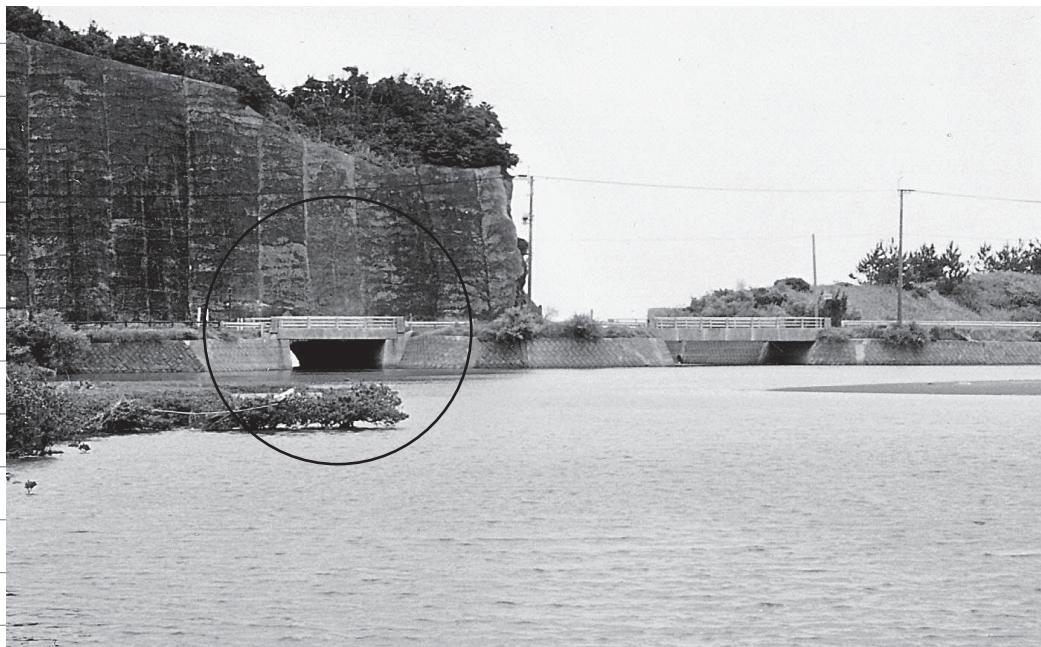
碑文によると、昔、平山と熊野の間を流れる大浦川には橋がなく、満潮になると人馬の往来ができなかったそうです。そんな中、日露戦争が始まり、熊野神社に出征兵士の武運長久を祈る参拝者が増えたため、その不便さは目に余り、以前からここに橋をかけたいとの志があった吉助翁は、次男の出征を機に決意し工事を始めました。そして明治37年9月、一人で木製の橋を完成させました。

吉助翁は昭和4年、86才で亡くなりましたが、その業績は後世に語りつがれ、いつしかこの橋を吉助橋と呼ぶようになりました。

のちにコンクリートの橋に架け替えられ、大浦橋と名づけられましたが、吉助翁の功績を忘れてはならないという平山の人々の思いにより、吉助橋と改称されたといわれています。



坂口吉助翁顕彰碑



現在の吉助橋